

公益財団法人 全国青少年教化協議会
(令和5年度第1回理事会議案資料)

2022年度事業報告書 (令和4年度)

2022年4月1日～2023年3月31日

公益財団法人 全国青少年教化協議会

事業報告目次

I 教化事業（公益目的事業1）

- 1 青少年健全育成推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 1 ～ P. 5
- 2 公益活動推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 5 ～ P. 7
- 3 臨床仏教研究所運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 7 ～ P. 11
- 4 出版事業・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 11～P. 12

II 表彰事業（公益目的事業2）・・・・・・・・ P. 12

III 災害支援事業（公益目的事業3）・・・・・・・・ P. 12～P. 13

IV 管理・・・・・・・・ P. 13

事業報告付属明細書・・・・・・・・ P. 14

令和4年度事業報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

I 教化事業（公益目的事業1）

仏教精神に基づき青少幼年をはじめとするすべての人々の心身と人格の健全な向上を図る事業

1 青少年健全育成推進事業

（1）仏教子ども会活動の推進事業

①花まつり行事の推進、助成

加盟教団及び府県地区青少年教化協議会（略称・青少協）に対して、花まつり行事の推進を図った。

②成道会全国こども大会の開催推進

令和4年12月8日前後の日曜日を中心に府県青少協・活動寺院・仏教系幼稚園他全国約60会場で開催した。

※参加者＝約10,000名（うち児童約7,000名）

※行事＝記念式典（法要・法話等）、お楽しみ会（童話、ゲーム、映画、パネルシアター、紙芝居、人形劇）等多彩な行事が各地で開催された。

※教材助成＝成道会用リーフレット（B6判、多色刷り）、成道会ポスター（A2判、多色刷り）、シャープペンシル（読売新聞東京本社、日本テレビ放送網株式会社からの助成品）を送付、各開催会場の責任者から参加児童に手渡された。

※後援＝読売新聞東京本社、日本テレビ放送網株式会社

③「コミュニケーション・スキルアップ」小冊子の配布

子どもたちのコミュニケーションを円滑に進めいじめや自死等の防止に資するため「コミュニケーション・スキルアップ」冊子を要請に応じて必要部数配布した。

（2）青少年教化研修会等の開催事業

①「子どもたちに豊かな地球をつなぐキャンペーン」の啓発

I P C C（気候変動に関する政府間パネル）の第5次評価報告書によると、最も気温上昇の予測が低いシナリオ（R C P 2. 5）では、2100年に気温上昇は0. 3～1. 7℃程度とされているが、最も予測が高いシナリオ（R C P 8. 5）では2. 6～4. 8℃もの気温上昇が予測されている。世界の気温上昇を1. 5℃までに抑えるには「CO2の排出量を2030年までに2010年の水準から45%減らし、2050年には実質ゼロにする必要がある」と公表している。

当キャンペーンは、負の遺産を子どもたちに残さないために、仏教者が連帯して釈尊が説いた縁起観（相互依存性）に基づき、環境破壊から環境再生へと強い意志を持って実践するものである。これにより、社会全体が少欲知足を旨とする発展的な「共生社会」へと転換し、豊かな環境を子どもたちにつないで行くことを目指す。（公益社団法人全日本仏教婦人連盟・公益社団法人日本仏教保育協会との協働事業）

※ねらい

1. 現状の環境問題について理解し考える機会を提供する。
2. 子どもたちに豊かな地球環境を継承する。

3. 少欲知足に基づいた発展的な共生社会の実現に寄与する。

※参加団体（3団体）：

公益財団法人全国青少年教化協議会・公益社団法人全日本仏教婦人連盟・公益社団法人日本仏教保育協会

※内容：

仏教三団体共同アクションプラン（第1期 2020年～2025年 第2期 2026年～2030年）

1. 各団体の既存事業に、環境をテーマにアレンジメントを加え実施する
2. 内閣総理大臣・環境大臣・文科大臣及び与野党代表者等へ要望書を提出する
3. 年一回、三団体共同イベントを開催する
4. 教員・指導者向けガイドライン・マニュアルをメディアミックスで配信する
5. 子ども向けの環境グッズを開発し配布又は頒布する
6. 子ども向けアウトリーチプログラムを作成し実施する
7. エコ寺院宣言・活動の啓発普及を行う
8. 年二回、連絡会議を開催する
9. 各年度に事業評価を実施する
10. その他時宜に叶った活動を行う（2022年度はウクライナ避難生徒支援）

②環境・文化講座の共催

子どもたちに豊かな地球をつなぐキャンペーン

「地球は昔に戻れるのだろうかー海から今をみる」

※日 時＝令和4年9月5日（月）

※会 場＝東京グランドホテル／曹洞宗檀信徒会館「芙蓉」の間

※講師：窪川 香薫（帝京大学客員教授・浄土宗長福寺住職）

※主催：（公社）全日本仏教婦人連盟

※共催：（公財）全国青少年教化協議会／（公社）日本仏教保育協会

※目 的＝今起こる海洋問題は重大な課題である。海水温の上昇によって毎年起こる巨大台風や線状降水帯による水害被害は、多くの犠牲者や被災者を生み出している。また、日本は海洋プラスチックごみが集まりやすい位置にあり、プラスチックの生産と利用も多い国であることから、プラスチックの製造や廃棄焼却で出る二酸化炭素は温暖化の原因となっている。本講座では、帝京大学客員教授、浄土宗長福寺住職の窪川香薫先生を講師に迎え、「海」に焦点を当て、地球温暖化と気候変動、そして海洋のプラスチックゴミの深刻な状況と子どもたちに及ぼす影響について学び、自然と人間との共生について考えた。

③カラーパネルシアター「地球を笑顔に！みんなのいのちとSDGs」制作・広報

「子どもたちに豊かなキャンペーン」の一環として、淑徳大学客員教授の藤田佳子先生と協働し、カラーパネルシアター教材を制作し、3団体共同にて広報した。身近なところから環境について知り、どのような行動をしたらよいかを考える、子ども向けアウトリーチプログラムとして今後活用していく。（全青協創立60周年記念）

※教材タイトル：「地球を笑顔に！～みんなのいのちとSDGs」

※監修：（公財）全国青少年教化協議会

※構成：藤田 佳子（淑徳大学客員教授・パネルシアター作家）

※絵：吉野 真由美

※協力：（公社）日本仏教保育協会／（公社）全日本仏教婦人連盟

※広報開始日：令和5年3月15日（水）

③「子どもたちに豊かな地球をつなぐキャンペーン」3団体連絡会議

（公社）全日本仏教婦人連盟・（公社）日本仏教保育協会・（公財）全国青少年教化協議会の3団体にて、「子どもたちに豊かな地球をつなぐキャンペーン」についての情報交換を行い、ウクライナ支援や文化講座開催等、キャンペーン事業の展開に向けて検討した。

※会場：東京グランドホテル／曹洞宗檀信徒会館「光」の間

※第1回 2022年4月26日（火）

※第2回 2022年8月29日（月）

※第3回 2022年12月5日（月）

（3）青少幼年支援ネットワーク拡充事業

① 青少幼年教化活動の調査・情報収集及び発信とNPO、公益法人等との活動連携

1）青少幼年教化活動者の活動内容の調査、情報収集

日曜学校等、青少年教化活動を行っている寺院の活動状況について聞き取り調査をした。

2）青少幼年を対象にした活動及び研究に関する情報収集

青少幼年問題に関する情報を広く収集するとともに、他団体が主催する青少幼年関係の研修会等にも参加し、その活動内容を把握した。又、加盟教団等の不登校・ひきこもり関連団体に関する情報収集を行った。

3）仏教団体、仏教系大学サークルの情報収集と活動の連携

青少幼年に関する活動を行っている仏教団体、仏教系大学の児童研究会等と連絡を取り、情報交換を行い、連携事業の展開に向けて検討を行った。

4）子ども支援系NPO・公益法人・学会等との情報交換及び活動の連携

チャイルドライン支援センター、オレンジリボン、全国フリースクール協議会、いのちの電話、全国社会福祉協議会、日本仏教教育学会、日本精神衛生学会、日本電話相談学会、日本虐待防止学会、日本弁護士連合会など、青少幼年の健全育成や子育て支援について活動を行っているNPO、公益法人、学会等との情報交換を促進し、活動の連携を行った。

② 文部科学省、厚生労働省、他行政機関との子ども・若者の支援のあり方についての協議・連携

1）文部科学省いじめ防止対策推進室との協議・連携

昨今深刻化している青少年のSNSを通じたいじめに関して、文部科学省いじめ防止対策推進室と情報交換を行い、子どもたちの現状を把握するとともに、いじめ防止及び緊急対応に関する施策の推進を働きかけた。

2）厚生労働省自殺対策推進室との協議・連携

子どもや若者をはじめとする若年層の自殺者数が高止まりを続ける中、自死予防活動等に関する協議を厚生労働省自殺対策推進室と行い、今後の施策についての協議と民間活動の支援について依頼を行った。特にSNSを巡るいじめや自殺等に関する対策について議論し、相談体制についてのガイドライン「自殺対策におけるSNS相談事業ガイドライン」の普及に協力した。

3）都道府県市町村社会福祉協議会等との協議・連携

被災地域における各社会福祉協議会と協議を行い、被災下における子どもの心のケアのあり方や過疎地域での支援のあり方についての共有を行った。

③府県・地区青少年教化協議会及び活動寺院・団体等との活動連携

1) 活動協賛

・第17回「ほとけさまの絵コンクール」の後援及び協賛

大阪青少年教化協議会主催の「ほとけさまの絵コンクール」を後援し、併せて協賛した。

※公募期間＝令和4年12月～5年2月

※主 催＝大阪青少年教化協議会

※後 援＝大阪市仏教会・全国青少年教化協議会 他

・第7回「こころの絵本大賞」の後援

公益財団法人仏教伝道協会が主催する「こころの絵本大賞」を後援した。

※テーマ＝「家族 友だち 勇気 いのち 思いやり 愛情」

※主 催＝公益財団法人仏教伝道協会

※協 賛＝鈴木出版株式会社

※後 援＝全国青少年教化協議会／毎日新聞社／日本仏教保育協会

・第3回「文化時報作文コンクール」の後援及び協賛

文化時報社主催の「文化時報作文コンクール」を後援し、併せて協賛した。

※公募期間＝令和4年6月～4年9月

※主 催＝文化時報社

※協 賛＝公益財団法人仏教伝道協会／公益財団法人全国青少年教化協議会

※後 援＝公益財団法人全日本仏教会 他

2) よみうりランド仏舎利法要開催への協力

協力企業の株式会社よみうりランドが主催して毎年開催されている「仏舎利法要」に対して、役員2名他が出仕し、同聖地公園にて法要を執り行った。

※日 時＝令和4年9月15日（木）

※会 場＝よみうりランド聖地公園（東京都稲城市）

④加盟教団等との活動提携、連携

加盟教団等からの要請に応じて講師を派遣し、講演・ワークショップを行った。又、必要に応じて資料の提供や情報交換を行い、加盟教団等の主催事業に参加・協力した。

1) 「現代教化法研究協議会」（加盟教団教化部門代表者会議）の開催

※新型コロナウイルス感染拡大の為、企画協議のみ行った。令和5年度以降はオンライン併用により開催予定。

2) 加盟教団・関係諸団体等への講師派遣及び及び協力

加盟教団、関連団体、大学、学会等の要請によりオンラインを利用した研修会・講習会等への講師派遣を行った。（日本仏教教育学会大会、浅草寺仏教文化講座、浄土宗児童教化連盟宮城支部オンライン学習会、上智大学グリーフケア研究所公開講座、日本緩和ケア学会大会、日本エンドオブライフケア学会、森田療法研究会、東京慈恵会医科大学第三病院緩和ケア拡大研究会、台湾緩和医療学会 他）

（4）少年法適応年齢引き下げに反対する各界懇談会への参加

①「少年法適応年齢引き下げに反対する」意見書の提出

法制審議会で議論されている少年法適応年齢引き下げについて、日本弁護士会館において他団体と複数回懇談会を開催し、15団体協働で法務大臣宛に提出した「少年法適応年齢引き下げに反対する」意見書に関してロビー活動を行うなどして内容の浸透を図った。18歳及び19歳の年齢対象には、特別措置が設けられることで法改正が行われた。

(協働団体：日本児童青年精神医学会、子どもシェルター全国ネットワーク会議、主婦連合会、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、全国地域婦人団体連絡協議会、全司法労働組合、全日本教職員組合、東京都地域婦人団体連盟、日本子どもソーシャルワーク協会、日本子どもを守る会、日本弁護士連合会、被害者と司法を考える会、非行克服支援センター、「非行」と向き合う親たちの会 他)

(5) 教化活動広報事業

①インターネットによる情報収集及び発信

公式ホームページやブログ、フェイスブック等各種ソーシャルメディアを利用して青少年問題や活動者に関する情報を収集し、全青協の活動情報と合わせて情報の発信を行った。

②「Web現代名僧墨蹟展」の運営

伝統仏教各宗派管長、大本山貫首をはじめとする高僧・名僧、又、茶道家元ら文化人より寄せられた書画作品をホームページ上に掲載し、広く一般の人々が心の安らぎや豊かさを感じ得るように試みた。

③『こころの処方箋 (仮題)』及び『子どもたちに伝えたい戦争のはなし』の刊行準備

ぴっばらに毎号連載された現代人が抱える子育て問題を中心に支援者がどのようにケアに取り組むべきかを提示するブックレット、及び第二次世界大戦下における子どもの心情を振り返ったブックレットの刊行準備を行った。

2 公益活動推進事業

(1) てらネットEN関連事業の実施

①不登校・ひきこもり当事者の家族を対象とした親学セミナーの開催

コロナ禍により休止していた「寺子屋ふぁみりあ」を、令和4年度は浅草寺福祉会館と協働して10月より隔月にて定例会を開催した。

※日 時＝第1回：令和4年10月14日（金）

第2回：令和4年12月9日（金）

第3回：令和5年2月10日（金）

※会 場＝浅草寺福祉会館

※内 容＝〇仏教ミニ講座 講師：神 仁(全国青少年教化協議会代表執行理事)

〇引きこもり状態にある方のご家族同士によるグループトーク 進行：臨床仏教師、社会福祉士、精神保健福祉士

②ひきこもり当事者就労支援プログラムの実施

「ご縁つながり隊」の運営

ひきこもりやニートの当事者が社会参加するための足がかりとして、就労支援活動を行った。

※日 時＝令和4年4月より月1日程度

※会 場＝全青協事務局

※内 容＝ホームページの修正・更新等を中心に、事務局における負担のない環境の中で社会参加を試みる機会を有償にて提供した。

③相談窓口の設置・運営

- 1) 不登校やひきこもり、自死念慮等、青少年やその家族が抱える悩みに対応すべく、全青協内に電話相談・インターネット相談窓口を設置して、当事者や家族に対してカウンセリングを行った。
- 2) こころの相談室の運営
全青協内に不登校や非行、ひきこもり、精神疾患等の悩みを抱える当事者やその家族を対象とした相談窓口を開設。電話やメールでの相談では対応できない場合には、対面による相談機会を提供した。
- 3) 貧困母子家庭児童および自死遺児支援プログラムに関する調査
子どもを持つ家庭の貧困率上昇や近年の自殺者の増加傾向に伴い、貧困家庭児童及び自死遺児支援プログラムに関して継続的に調査を行った。特に被災地における現状の把握に務め、あおぞら奨学基金をはじめとする支援活動につなげた。又、不登校やひきこもり、自死念慮、児童虐待、DV、発達障がい他、青少年や親等が直面する多様な問題に対して仏教情操教育をベースに当事者をサポートする「仏教子ども家庭支援センター（仮称）」の開設に向けて調査を行った。

④浄土宗ともいき財団「心といのちの電話相談室」開設事業協力

浄土宗ともいき財団が「心といのちの電話相談室」を開設するにあたり、企画、運営、研修に関して役員が相談役職として協力を行った。

※第9期電話相談員養成講座＝9月～12月（全8回）

※開設日時＝令和4年4月4日（月）～（コロナ禍継続のため毎週月曜日午前10時～午後4時）

※会 場＝東京都港区・明照会館内

⑤てらネットENパンフレット・小冊子の配布

てらネットENでは、ひきこもりの問題について正しい理解がなされて支援の輪が広がり、寺院等においては当事者や家族からの相談に対して適切な対応をするための一助となり得ることを期して、ひきこもりに関する基礎的な知識や対処法等を掲載した小冊子を、加盟教団・青少協・不登校ひきこもり支援団体等の要請に応じて配布した。

（2）「ぴっばら国際児童基金」の運営

①奨学金の支給

インドのスラムや路上で暮らす子どもたち、山岳部の遊牧民の子どもたち等、経済的な貧困状況のために教育を受けることが出来ない子どもたちをチャイルド・サポーター（里親）及び会員等からの支援金を基にして奨学金の支給を行っている。

②無料小学校の運営

学用品・教職員の給与等をはじめ、貧困層の子どもたちを対象とした無料小学校の運営に必要な運営費全般について支援を行った。

③無料診療所の運営

貧困家庭母子等を対象としたホメオパシー（免疫療法）を中心とした無料診療所を運営し、医薬品の提供お

よび栄養補給等の支援プログラムを推進した。

④ 貧困家庭の母親を対象とした就労支援

貧困家庭の母親を対象に、職に就くための語学学習、編み物やクラフト製作等の就労支援を行った。

(公益社団法人全日本仏教婦人連盟との協働事業)

3 臨床仏教研究所運営事業

(1) 臨床仏教師養成プログラム

— 仏教師は現代社会のなかで人びとのところにどのように寄り添うことができるのか —

平成25年度から現代社会の生老病死にまつわるさまざまな苦悩と向き合い、専門的な知識や実践経験をもとに行動する臨床仏教師を養成するプログラム《座学（公開講座）⇒ワークショップ⇒実践研修（OJT）》を実施している。

① 第7期ワークショップ課程の開催準備・開始

座学（公開講座）で学んだ生老病死の「今」を踏まえたうえで、現場において相手のところに深く寄り添い、又、自分自身が燃え尽きてしまうことのないようにケアのあり方を理解するなど、活動のベースとなる技法を基礎から体系的に学ぶワークショップを、令和4年3月より原則隔週にて、全10回の連続講座として開催した。

※会場＝東京グランドホテル／曹洞宗檀信徒会館「芙蓉」の間

※参加者数＝26名

第1講：令和4年3月10日（木）

○内容「仏教カウンセリング・傾聴法」

○講師 神 仁（臨床仏教研究所研究主幹・東京慈恵会医科大学講師）

第2講：令和4年3月31日（木）

○内容「内観法」

○講師 千石 真理（臨床仏教研究所特任研究員・心身めざめ内観センター主宰）

第3講：令和4年4月14日（木）

○内容「生と死のプロセスワーク&マインドフルネス瞑想」

○講師 吉水 岳彦（臨床仏教研究所上席研究員・淑徳大学講師）

第4講：令和4年4月28日（木）

○内容「いのちのケア&スピリチュアルケア—方法論と実践」

○講師 窪寺 俊之（兵庫大学大学院特任教授・臨仏研アドヴァイザー）

第5講：令和4年5月12日（木）

○内容「コミュニケーション・トレーニング&ロールプレイング」

○講師 吉水 岳彦（臨床仏教研究所上席研究員・淑徳大学講師）

第6講：令和4年5月26日（木）

○内容「グリーフケア」

○講師 西岡 秀爾（臨床仏教研究所特任研究員・花園大学国際禅学研究所客員研究員）

第7講：令和4年6月9日（木）

○内容「インターフェイス・チャプレンシー」

○講師 高木 慶子（上智大学グリーフケア研究所名誉所長）

第8講：令和4年6月23日（木）

○内容「ターミナルケア&セルフケア・チームケア」

○講師 大河内 大博（臨床仏教研究所特任研究員）

第9講：令和4年7月7日（木）

○内容「苦集滅道（四諦）ワークショップ」

○講師 ジョナサン・ワッツ（臨床仏教研究所上席研究員・慶応大学講師）

第10講：令和4年7月28日（木）

○内容「トラウマケア&ロールプレイング②」

○講師 神 仁（臨床仏教研究所研究主幹・東京慈恵会医科大学講師）

②第7期OJT課程考查

※日 時＝令和4年12月16日（金）9：00～16：00

※会 場＝東京グランドホテル／曹洞宗檀信徒会館「芙蓉」の間

※内 容＝筆記及び実技

※受験者＝21名

※合格発表＝12月30日（金）

③第8期臨床仏教公開講座 開催

「難民支援」「ターミナルケア」「グリーフケア」「自然環境」「災害と仏教」等、現代社会における臨床的テーマを取り上げ、10月より原則隔週にて全10回の連続公開講座を開催した。（花園大学等との協働事業）

※会 場＝キャンパスプラザ京都（京都府京都市）

第1講：令和4年10月18日（火）

○演題 「難民支援のあり方—今、私たちに何ができるのか！？」

○講師 河野 太通（花園大学前総長）&神 仁（臨床仏教研究所研究主幹）

第2講：令和4年11月8日（火）

○演題 「仏教者の災害支援活動—僧侶と寺院の可能性」

○講師 稲場 圭信（大阪大学大学院人間科学研究科教授）

第3講：令和4年11月22日（火）

○演題 「生老病死のトータルケア—地域社会の力を活かす」

○講師 飯島 恵道（ケア集団ハートビート代表）

第4講：令和4年12月6日（火）

○演題 「クマの棲む豊かな森を次世代へ—縁起観に基づく共生社会」

○講師 室谷 悠子（一般財団法人日本熊森協会会長・弁護士）

第5講：令和4年12月20日（火）

○演題 「被害者のこころとレジリエンス—心理的援助のあり方を考える」

○講師 丹治 光浩（花園大学教授・前学長）

第6講：令和5年1月10日（火）

○演題 「きょうだいを亡くされた方へ—ご遺族のグリーフケア」

○講師 赤田 ちづる（きょうだいを亡くした会「栞の会」主宰者）

第7講：令和5年1月24日（火）

○演題 「いのちの安心を分かち合う一傾聴僧としての取り組み」

○講師 河合 宗徹（臨床僧の会 指導員）

第8講：令和5年2月7日（火）

○演題 「子どもたちのこころに寄り添う一僧侶として、スクールカウンセラーとして」

○講師 佐々木 慈瞳（奈良県教育委員会スクールカウンセラー）

第9講：令和5年2月21日（火）

○演題 「仏の願いと仏教福祉—ビハーラ21の活動を通じて」

○講師 三浦 紀夫（ビハーラ21理事）

第10講：令和5年3月7日（火）

○演題 「悲嘆を抱える方の居場所として—お寺を場とした支援のあり方」

○講師 西岡 秀爾（臨床仏教研究所特任研究員・花園大学国際禅学研究所客員研究員）

※参加者数＝会場22名

④第8期ワークショップ課程開催準備を行い、受講者を募集した。（※花園大学等との協働事業）

※会場＝キャンパスプラザ京都（京都府京都市）

第1講：令和5年5月16日（火）

○内容「カウンセリング・傾聴法入門」

○講師 丹治 光浩（花園大学教授・前学長）

第2講：令和5年5月31日（水）

○内容「内観法」

○講師 千石 真理（臨床仏教研究所特任研究員・心身めざめ内観センター主宰）

第3講：令和5年6月13日（火）

○内容「生と死のプロセスワーク&マインドフルネス瞑想」

○講師 神 仁（臨床仏教研究所研究主幹・東京慈恵会医科大学講師）

第4講：令和5年6月27日（火）

○内容「苦集滅道（四諦）ワークショップ」

○講師 ジョナサン・ワッツ（臨床仏教研究所上席研究員・慶応大学講師）

第5講：令和5年7月11日（火）

○内容「グリーフケア」

○講師 西岡 秀爾（臨床仏教研究所特任研究員・花園大学国際禅学研究所客員研究員）

第6講：令和5年7月25日（火）

○内容「インターフェイス・チャプレンシー」

○講師 高木 慶子（上智大学グリーフケア研究所名誉所長・臨仏研アドヴァイザー）

第7講：令和5年8月22日（火）

○内容「いのちのケア&スピリチュアルケア—方法論と実践」

○講師 窪寺 俊之（兵庫大学大学院特任教授・臨仏研アドヴァイザー）

第8講：令和5年9月12日（火）

○内容「コミュニケーション・トレーニング&ロールプレイング」

○講師 吉水 岳彦（臨床仏教研究所上席研究員・淑徳大学講師）

第9講：令和5年9月26日（火）

○内容「ターミナルケア&セルフケア・チームケア」

○講師 大河内 大博（臨床仏教研究所特任研究員・さとさんが願生寺共同代表）

第10講：令和5年10月11日（水）

○内容「トラウマケア&ロールプレイング②」

○講師 神 仁（臨床仏教研究所研究主幹・東京慈恵会医科大学講師）

※参加者数＝11名

（2）臨床仏教師オンラインミーティング・グループスーパービジョンの開催

①第1回：令和4年12月23日（金）

※オンラインツール＝ZOOM

※コーディネーター＝神 仁（臨床仏教研究所研究主幹）

※参加者＝ジョナサン・ワッツ（臨床仏教研究所上席研究員）・吉水 岳彦（臨床仏教研究所上席研究員）・千石 真理（臨床仏教研究所特任研究員）・大河内 大博（臨床仏教研究所特任研究員）・古村 栄伸（臨床仏教研究所嘱託研究員）飯島 聡子（第1期臨床仏教師レジデント）・伊藤 竜信（第1期臨床仏教師）・楠 恭信（第1期臨床仏教師）・大草 敏憲（第1期臨床仏教師）・森脇 有海（第2期臨床仏教師）・星 光照（第2期臨床仏教師）

※オブザーバー＝井戸 雅秀（第6期OJT実習生）・岩浅 慎龍（第6期OJT実習生）・江頭 真理子（第6期OJT実習生）

（3）令和5年度臨床仏教研究所公開研究会開催準備

「スウェーデンにおける”いのちのケア”の実践

ーキリスト教司祭による「禅」をベースとしたケアのあり方」

※日 時＝令和5年4月12日（水）

※会 場＝東京グランドホテル／曹洞宗檀信徒会館「芙蓉」の間

※基調講演＝グスタフ・エリクソン（スウェーデン・ルーテル教会司祭）

※対 話＝グスタフ・エリクソン& 神 仁

※主 催＝公益財団法人全国青少年教化協議会・臨床仏教研究所

※目 的＝ここに寄り添って耳を傾け、その語りを紡ぐ臨床仏教師の存在は、多様な苦しみを抱える現代社会において求められるべき存在と言える。本研究会では、スウェーデン・ルーテル教会の司祭であり、北部ウメオの病院、刑務所、軍隊においてチャプレンを務める、グスタフ・エリクソン師をゲストスピーカーとして招いた。エリクソン師は、1990年代に曹洞宗の西嶋愚道師に参禅し、以来、禅の実践者として北欧において”いのちのケア”に取り組んで来た。また、近年は、ルーテル教会が運営する自殺防止ホットラインのカウンセラーとして活動の場を広げている。キリスト者でありながら禅の実践家でもあるエリクソン師より、スウェーデンにおける「いのちのケア」の実践、及び「禅」をベースとしたケアのあり方について学んだ。

※参加者＝約100名（会場&オンライン併用／ハイブリッドでの開催）

（4）臨床仏教師（仏教チャプレン）資格認定制度に関する調査

今年度も引き続き、教育・福祉・医療等の臨床現場において、仏教精神に基づいた心理的・精神的ケアを行うことのできる臨床仏教師の資格認定制度運営に関する国内外での調査・準備を進めた。主要な病院等を訪問し、

情報交換するとともに、臨床仏教師の活動の場を開拓することに努めた。

(5) 臨床仏教師の派遣

福島県立医科大学附属病院（福島県）・三友堂病院（山形県）・東京慈恵会医科大学附属病院（東京都）・四国がんセンター（愛媛県）をはじめ、全国の医療施設・福祉施設等20施設に臨床仏教師を派遣し、対象者の「いのちのケア」（スピリチュアルケア）に従事した。

(6) 臨床仏教研究所 公式ホームページ等による情報発信

臨床仏教研究所のホームページ、ブログ・フェイスブック等各種ソーシャルメディアと連動して講座内容、調査報告、プログラム運営等に関して情報の発信を行った。

(7) インターナショナル・ネットワーク・ブッデストチャブレンシー（INBC）の設立準備

臨床仏教の研究及び国際的な普及と、臨床仏教師の育成プログラムについて検討する国際ネットワークを立ち上げるための準備作業及びブレ会議をオンラインにて開催した。（全青協創立60周年記念事業の一環）

4 出版事業

(1) 機関誌『ぴっばら』の発行状況

① 月別発行部数

月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	月	部数	平均発行部数
5-6	5,000	7-8	8,200	9-10	5,800	11-12	5,000	1-2	5,800	3-4	6,100	5,983部

② 『ぴっばら』「特集」テーマ一覧

月	テ　　マ
5-6	安心と安全をすべての人に　——　いま、難民問題を考える
7-8	縁起の理法から見たウイルスと私たち　——　新型コロナパンデミックをめぐる
9-10	より良く生きるための道とは　——　カルト宗教に取り込まれないために
11-12	国が命を奪うとき　——　死刑制度の存廃を考える
1-2	持続可能な海を子どもたちに　——　地球は昔に戻るのだろうか
3-4	「ひきこもり」家族を孤立させるな　——　支援に必要な視点とは

(2) 書籍・教材発行と調査及び研究、広報

青少年向けの各種教材を発行。花まつり用ぬりえ、シール、風船、ポスター及び甘茶クッキー等を頒布した。

①教材等の製作

A) 甘茶クッキー

甘茶クッキーを「おかし屋ぱれっと」（障がい者の自立支援を行うNPO法人）と共同開発し頒布した。

②書籍・教材の調査及び研究

今後の出版事業につないでいくために、青少年関係の出版物並びに教材等を調査・研究した。

③出版物・教材の広報活動

出版物は会員以外への販路を開拓するべく、頒布活動に力を入れ、教材は成道会、お盆、花まつりをはじめとして、あらゆる機会を利用して、DM、チラシ等で広報した。

II 表彰事業（公益目的事業2）

青少幼年の健全育成に尽力し、社会の情操教育振興に功績のあった個人及び団体を表彰する事業

（1）『正力松太郎賞』の実施

仏教精神に基づき、長年にわたって青少幼年の宗教情操の育成に尽力して顕著な実績をあげ、今後も活躍が期待される個人・団体を表彰した。

① 「第46回正力松太郎賞」

受賞者活動報告会及び表彰式：令和4年10月4日（火）於：東京グランドホテル

※受賞者＝

本賞：浄教寺仏教青年会（代表：島田 春樹／奈良県奈良市）

NPO法人けやの森自然塾（理事長：佐藤 朝代／埼玉県狭山市）

奨励賞：雲龍寺集いの会（代表：今井 俊宏／栃木県鹿沼市）

② 「第47回正力松太郎賞」

公募期間：令和4年9月から12月まで

選考委員会：令和5年6月8日（木） 於：東京グランドホテル

（2）優秀表彰の実施

情操教育を目的とした書道・絵画等を通じ優秀な成績をおさめた児童・生徒への表彰、又、青少幼年の健全育成に貢献した個人及び団体を表彰した。

- ・曹洞宗主催「第56回青少年書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・大正大学書道研究部主催「第71回全国書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・文化時報社主催「第3回文化時報作文コンクール」を後援。

III 災害支援事業（公益目的事業3）

国内外の自然災害に際する緊急支援及び復興支援を行う事業

（1）東日本大震災復興支援事業

石巻被災地支援センター等を拠点として、被災地の方々、特に子どもたちや高齢者の方々のニーズに応えるべく、精神的なケアにつながる支援を主とした活動を行った。

①孤独死・自死を防止するためのこころのケアを行う人員の派遣

こころのケアについて講習を受けたボランティアスタッフを組織し、定期的に復興支援住宅等において茶話会及び歳時に対応したイベントを開催した。

②「あおぞら奨学基金」の運営

平成24年度に一般財団法人杉浦ブラムチャリヤ、公益社団法人全日本仏教婦人連盟と協働して「あおぞら奨学基金」を設立。東日本大震災で公的な支援の狭間にあつて就学困難な状況にある高校生のための給付型奨学金支給事業を立ち上げ、基金事務局として運営を行った。令和4年度は宮城県・岩手県・福島県の公立高校を中心に269名に月々1万円の奨学金を給付し、それぞれの生徒が継続的かつ安定した就学環境を得ることに努めた。卒業生に対してはあおぞら奨学生卒業証書を授与した。

(2) 国内外緊急支援事業

国内外のさまざまな災害に際して必要に応じて適宜支援活動を行った。

① 仮設住宅等を巡るの巡回ハーブティーサロンの開催

西日本豪雨における被災地の仮設住宅、寺院、高齢者施設において月2回程度、西洋の漢方薬とも言えるハーブティー等を提供しながら、被災者の方々のこころのケアにあたった。実施にあたっては、曹洞宗青年会、真言宗御室派青年会等の協力を得た。

② ウクライナ避難生徒支援

令和4年2月24日に開始されたロシアによるウクライナの侵攻のため、日本国内へ避難してきたウクライナの中高生を対象に支援を開始した。ウクライナから中高生の避難者を受け入れている山梨県甲府市の「日本航空学園山梨キャンパス」及び石川県輪島市の「日本航空高等学校石川能登空港キャンパス」と連携を取り両校を訪問して、担当教諭、対象生徒計7名と面談後、「就学支援一時金」を供与した。また、令和5年度から返還不要な奨学金を供与すべく準備を進めた。(公益社団法人全日本仏教婦人連盟・公益社団法人日本仏教保育協会との協働事業)

IV 管理

(1) 組織の充実・拡充

理事会及び評議員会、青少協代表者会議の席上において会員拡充への協力を依頼した。又、各宗派の研修会等において全青協の資料を配布し入会案内を行った。会員数は令和4年3月末日現在、622名。内訳は「会員」206名、「活動会員」223名、「賛助会員」170名、「特別賛助会員」23名。※団体含む

(2) 創立60周年記念事業の企画・推進

創立60周年を迎えるにあたり、記念教材の出版、研修会の開催、臨床仏教国際ネットワークの設立、記念大会の開催企画準備及び推進に取り組んだ。

2022年度事業報告附属明細書

2022年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2023年3月

公益財団法人 全国青少年教化協議会